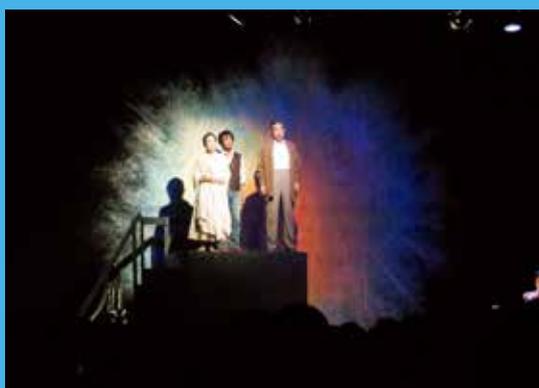


学校だより

令和元年7月発行 鳥羽商船高等専門学校
広報・公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号 TEL 0599-25-8013



入学式



演劇鑑賞



体育祭



交通安全講習会

- 校長式辞
- 学科紹介
- 学生の活躍
- 乗船実習
- 研究紹介
- 学校行事
- 学校通信

校長式辞



平成三十一年度 本科並びに専攻科入学式

校長 林 祐司

鳥羽商船高等専門学校本科ならびに専攻科の新生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、今日まで皆さんの成長を温かく見守り、励ましてこられた保護者の皆様にも、本校教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。

本日、ここ本科には商船学科四十二名、情報機械システム工学科八十名、制御情報工学科三年次編入生ラオスからの留学生一名の合計百二十三名の新生を迎え、さらに専攻科生産システム工学専攻に十名の進学者を迎え、平成三十一年度の入学式を挙行できますことは、私も鳥羽商船高等専門学校教職員ならびに在校生一同にとりまして、大きな喜びです。

さて、皆さんが入学された鳥羽商船高等専門学校は、長い歴史のある学校で、今年で百三十八年を迎え、教育・研究のさらなる充実と発展を期しているところです。

入学された皆さんには、我が国の将来を担う人材として、日本の社会と産業界から皆さんが想像する以上の大きな期待がかけられています。本科で五年あるいは五年半、専攻科に進む人はさらに二年間勉強し、実践的な工学の知識と技術を身につけ、創造力・協調性・リーダーシップを備えた逞しい人間に育つて欲しいと思います。因みに、これら創造力・協調性・リーダーシップは今後、社会が皆さんに問い続けることになるでしょう。

私はこの場で皆さんに二つのお願いをします。

○一番目は、「他人の個性を認め、尊重する」と。

人は一人ひとり異なりますし、それぞれ得手・不得手、長所・短所があります。また、お互いの相性というものもあります。その差異をお互いに認め、尊重し合うように努力してください。楽しい気持ちいいクラスを作ること、世界平和を構築することも、この「他

人の個性を認め、尊重する。」という同じ考え方が基本となっています。

○二番目は、「志を立てる」と。

「志を立てる」ということは、自分自身の目標を設定し、五年間または二年間ぶれない・諦めないで希望に向かって進んでいくということです。ここで云う「志」とは、シップ・ナビゲーションにおける不動の天体「北極星」と同じです。皆さんが人生に迷った時、道標（みちしるべ）になるものです。学年が上がるごとに、「志」が具体的になっていくように強く希望します。

次に学生寮に入る皆さんにお願いします。皆さんにとって寮生活はおそらく初めての経験だと思えますが、寮はクラスやクラブ活動とは異なった共同生活の場です。皆さんが楽しくかつ実りある寮生活を送るために一番大切なことは、一目で御願いをした「他人の個性を認め、尊重する。」ということ。寮生活の経験が、一生の宝物になるか否かは「他人の個性を認め、尊重する。」の一点にかかっています。

そのヒントが書かれている一冊の本を紹介いたします。吉野源三郎著「君たちはどう生きるか」という本です。君たちが立派に生きるために必要なメッ

セージが書かれています。この本とともに鳥羽商船高専の在学期間を過ごしてもらいたいと切望します。困った時、迷った時に、きっと君を救ってくれる本です。この本は、「志」と同様に皆さんの生き方を松明の光のように照らし続けてくれると確信します。図書館に行こう。図書館は宝箱です。

最後になりますが、本校では、学則に則り、用意した教育カリキュラムに従って学生の皆さんの教育に当たってまいります。保護者の皆様におかれましては、本校の教育にご理解をいただき、お力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成三十一年四月三日



商船学科の紹介



商船学科長・航海コース主任

片岡 高志

本校の定員は、高専に昇格した昭和42年は、航海学科40名、機関学科80名、計120名で船舶職員を養成する学科のみで構成されていきました。昭和60年の学科改組を皮切りに、平成元年に現行の商船学科40名体制となり、平成13年入学生から三年進級時に航海コース（N）、機関コース（E）を選択することとなりました。入学当初は、航海コースを希望する学生が多くみられますが、甲板部機関部夫々の職務について学び、更に練習船での実習を経験した結果、今年度までの累計では、NEほぼ同数となっております。

練習船実習は商船学科の大きな特徴であり、三級海技士の資格を得るためには、通算一年の大型練習船実習が必要となります。この実習は、主に海技教育機構に委託して実施されており、本校はこれとは別に校内練習船「鳥羽丸」を有しており、実験実習や鳥羽丸実習等で活用しております。練習船が身近にあることで、実践的な教育訓練が可能となり、海技士養成の重要な役割を担っております。

現行の鳥羽丸（三代目）は平成6年に竣工されたものであり、今年で船齢25年目を迎えました。次世代の海洋産業人材の育成を視野に入れ、新鳥羽丸の建造が期待されます。



情報機械システム工学科の紹介



情報機械システム工学科長

江崎 修央

情報機械システム工学科（定員80名）は本年度4月に電子機械工学科（定員40名）と制御情報工学科（定員40名）の2つの学科から学科改組により誕生しました。電子機械工学科は昭和60年に本校初の工業系学科として誕生し、機械・電気電子工学を中心に情報工学についても学ぶ学科でした。また、制御情報工学科は昭和63年から主として情報・電気電子工学についても学ぶとともに機械工学分野の内容についても学習してきました。しかし、両学科ともに情報・電気電子・機械の3分野を学ぶ点から、受験する中学生から見ると学科の違いが分かりにくく、また入学後に学生の学びたい内容が機械から情報（あるいは情報から機械）等に変わっていった場合には、自分の専攻分野を変えることが難しいという問題がありました。そこで、数年前から両学科を大括りの1つの学科とするところが検討され、今年度から情報機械システム工学科となりました。

新学科設置のポイントは大きく2つあります。1つは入学後にプログラミング教育を始めとする工学の基礎を学び、基盤となる情報・電気電子・機械の3分野の基礎を順に学習し、上級学年では、自らの個性や特性に合わせて専門性や志向性を決定するオーダーメイド型カリキュラムとなっている点です。

2つめは、旧学科の3・4年生で実践してきた「創造実験」と呼ばれるPBL（Project Based Learning）型の実験を「地域連携PBL」という

名称に変更し、1年から5年生までの全学年で実施することです。PBLとは、自らが問題を発見し解決する能力を身に付けるための能動的な学び（アクティブラーニング）のことです。地域課題を解決するPBLプロジェクトに1年生から所属することで、机上の学習にとどまらず、地域産業や文化を理解し工学的な解決法を提案できる実践的技術者の育成を目指します。これにより、1学年80名×5学年＝400名の学生が地域連携PBLに取り組むことができます。新学科が誕生したことで、その応用範囲はこれまで以上に広がります。これまでには取り組むことが難しかった複合・融合分野へ挑戦できると考えています。

新学科として情報機械システム工学科がスタートしましたが、新学科を成功させるためには教職員や学生だけでなく、卒業生や企業や地域の方々など多くの方々の協力が必要です。関係者のみなさま、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



一般教育科の紹介



一般教育科長

鈴木 聡

一般教育科は高校3年間＋大学の教養課程2年間のレベルまで5年間一貫教育を実施しています。場合によっては、大学専門課程に相当する専攻科2年生まで含めると7年かけた一貫教育を実施していることとなります。そのため、一般教育科は通常の高校や大学では体験できない、幅広い知識を学習することができまます。そして、その幅広い知識を体験できる機会が、本校で独自に開発した一般基礎教育という授業です。これまでも一般基礎教育では、「ライブプラン」「デートDV」「消費者教育」「スマホ安心安全講話」「消費者教育」「日本国憲法」等の様々なテーマについて外部の方から講演していただきました。今年はそれに加え、英語に関する講演、自衛隊による防災講話及び三重県議会による出前授業を企画しております。中でも特筆すべきことは6月12日に行われた英語講演は日本の英語教育界でカリスマ教師として名高い安河内哲也先生がこの一般基礎教育の授業に来ていただき、英語の四技能の在り方や大切さ、具体的な勉強方法等を本校学生に提示していただけたことです。これにより、少しでも本校学生が英語を自発的に学習するきっかけになつてくれればと思います。その他にも1年生に関しましてはスタディーサポートの結果に基づき、習熟度別授業を実施し、各自が目標とする英検の級に合格できるように他の学科の協力も仰ぎ、サポートしています。ぜひ、学生の皆さんは、これらの様々な学びを通じて将来自分ができるような技術者になりたいかを是非模索しながら、成長していただきたいと思います。

専攻科の紹介



専攻科長

宮崎 孝

本校専攻科は、海事システム学専攻と生産システム工学専攻で構成されています。専攻科の2年間の教育課程を修了し、十分な内容の特別研究を行ったうえで、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格すると、四年制大学卒業と同等の学士の学位を取得することができます。このための教育が適正に行われているかの審査を5年毎に受けています。

本校専攻科は、2018年度に制度が変わって初めての審査を受けました。審査の内容は、基礎資格として授業が十分な内容で行われているか、学位を受けるに値する研究が行われているかの二つに分かれています。どちらも担当教員の審査も行われます。その結果、改善を求められた点もありましたが、無事合格となりました。

現在の本科5年生は、新しいカリキュラムを受けた最初の学年となります。学位の申請は、専攻科の2年間だけではなく、本科の高学年も含めて4年間相当として扱われます。このため、審査に合格したばかりですが、カリキュラムについての審査を今年度も受けることとなります。

制度の話となり分かり難かったかもしれませんが、このように教育のチェックや変更を常に行っていますので、是非、専攻科への進学を検討してみてください。



学生の活躍

剣道部の紹介

制御情報工学科5年

辻 拓帆

現在の剣道部の部員数は、5年生2名、4年生3名(女子1名)、3年生5名、2年生3名(女子1名)、1年生3名(女子1名)の計16名です。

練習は普段からご指導していただいている課外活動指導員の竹田照人先生のもと、月火木金の週4日、16:00～18:30に行なっています。

年間予定については高体連春季大会(4月)、高体連高校総体(6月)、東海地区高専大会(7月)、高校1年生大会(8月)、昇段試験(11月)、高体連秋季大会(11月)、高校剣道新人大会(1月)、全国高専剣道錬成大会(3月)に出場しています。最近では学校のスケジュールにあわない大会もありますが、その中でも昨年の東海地区高専大会では男女ともに団体戦で準優勝を果たしました。剣道部に興味のある方は、一度剣道場へ見学しにきてください。また、今年度は部員や他の方々と交流を深めるために海学祭への出店を計画しております。こちらもぜひお越しください。



女子バレーボール部 「高専大会東海地区予選 優勝」

商船学科航海コース4年

今村 紗慧

私たち、鳥羽商船女子バレー部は、週4回練習を行なっています。この学校の放課時間は、クラスによってバラバラで、部員全員が揃って練習できる時間は限られています。短い練習期間で、ようやく自分たちの力を出し切れるコンディションがやっと整ったと思うと、ほぼ同時に高専大会東海地区予選が始まります。



初日は、1時間の前日練習を行います。そして、次の日から5チームの総当たり戦が行われます。真夏の暑い体育館で戦う試合は、心身ともに消耗するものですが、大会となると気持ちが上がって点を取った時に全員で声を出すのが気持ちよかったです。大会初日に1試合を落としてしまい、後がない状況で2日目に切り替えて自分たちのバレーができたことが優勝に結びついたのだと思います。

部員数、練習量共に決して多くない女子バレー部ですが、指導してくださる教官や応援していただいている人に感謝しながら、次の大会も優勝できるように、これからも活動していきます。

少林寺拳法部「第二十二回 全国高校少林寺拳法選抜大会」

商船学科2年

服部 彩喜

私たち少林寺拳法部は、三月二十六日から香川県で行われた「第二十二回全国高校少林寺拳法選抜大会」に出場しました。

一日目に行われた弁論の部では、予選を通過した六名による弁論発表が行われました。私は、少林寺拳法の教えを受け、平和について自分の考えを発表しました。この弁論で二位として賞を頂きました。

二日目には競技の部が行われ、鳥羽商船高専からは単独演武・組演武の部に五名出場しました。予選敗退という結果に終わりましたが、全国から集まったレベルの高い選手たちの演武を見て大きな刺激を受けました。同時に、他の選手の突きや蹴り、技の一つ一つについてたくさんの方のアドバイスを頂きました。

この大会での貴重な経験を通して、これからもたくさんの方の指導を重ね、より一層成長できるよう努力します。

最後に、この大会に出場するにあたり、大きな協力をして下さった教官方、先輩方、友人や家族など、全ての方に深く感謝します。

ソフトテニス部「平成30年度 鳥羽市民体育大会にて優勝」

制御情報工学科5年

笠松 竜之介

私たちは、平成30年10月28日に開催された第60回鳥羽市民体育大会で、優勝という成績を残すことが出来ました。普段からサーブに力を入れて練習をしており、常に攻めの気持ちをもって試合に挑みました。その成果もあり今回の大会では、一試合目から最終試合まで、全ての試合で初めから攻め切ることができました。

試合に勝てたことに對しては当然嬉しいのですが、純粋に試合を楽しむことができたことをとても嬉しく思っています。

ただし、簡単なミスなどが見られる場面も多々あり、これからの練習ではそういったミスを減らしていくような練習をしたいと考えています。

そして、今回の試合の感覚を忘れないうちに、これからも攻めの気持ちをお忘れず練習を頑張っていきたいと思えます。



写真部「第6回伊勢湾フェリー フォトコンテストについて」

商船学科航海コース4年

植木 龍哉

私は昨年9月から12月に行われた、鳥羽と伊良湖を結ぶ伊勢湾フェリーが主催する「第六回伊勢湾フェリーフォトコンテスト」において、最優秀賞の次点にあたる「鳥羽伊良湖航路活性化協議会長賞」をいただきました。

「伊勢湾フェリーから見る風景」「伊勢湾フェリーの見える風景」という募集テーマの中で、鳥羽と伊良湖そして伊勢湾フェリーの関係性をいかに写真で表現するかを試行錯誤しながら多くの写真を撮影しました。約3ヶ月間で撮影した伊勢湾フェリーの写真はおよそ270枚におよびます。

入賞した作品は「船旅」というタイトルで、答志島と伊良湖を背景に航行するフェリーを写すことで、55分という長いようにも短いようにも感じられる船の旅を表現しました。鳥羽の桶の山(標高160m)から超望遠を使った撮影に挑戦した一枚です。この作品を撮影するにあたり、以前から撮影してきた大量のデータを参考にし、新たな撮影地を探す為に地形情報サービスを活用し実際にその土地を歩いてまわり、今回の桶の山という撮影地に辿りつきました。

2月下旬に名古屋屋の中日新聞社で開

催された授賞式の会場では関係者から「どこで撮影したのですか」「鳥羽にこのような場所があったのですね」というようなコメントをたくさん頂きました。

今回のフォトコンテスト入賞は私にとっては初めてのことでとても嬉しかったですし、自身のこれからへの大きな自信にもなりました。

パソコンサ子園2018に参加して

制御情報工学科3年

濱口 智哉

私たちは、2018年11月17日と18日に福島県会津若松市で行われた、パソコンサ子園2018に出場しました。私たちはこのコンテストで、「まち知るクエスト」を作成しました。「まち知るクエスト」は現在玉城町で実施されている「T.M.K.ミライデザインプロジェクト」というプロジェクトの一部として開発しました。このアプリケーションは、玉城町で実際に行われたアンケート情報を元に会話内容を作成し、アプリ内のキャラクターと会話をすることで、地域で起こっている問題などを見える化する、といったアプリになっています。コンテストではプレゼンテーションと、デモを行います。結果は、準グランプリ相当のベ

ストデザイン賞を受賞することができました。私たちはこのコンテストを経て、チームワークの大切さ、自分たちに足りないものが、周りの方々の支えなどを強く感じることで、とても良い経験になりました。



第7回高校・高専 気象観測機器コンテスト

制御情報工学科5年

岡本 真平

2018年11月に開催された第7回高校・高専気象観測機器コンテストに私を含む3・4年生の5名で参加し、「AIウオーター」を開発して優秀賞を受賞しました。このコンテストでは気象データを計測する機器を開発し、技術やアイデアを競い合います。私たちが開発した「AIウオーター」は、農場への水やり、換気作業をスマートフォンから遠隔操作で行うことができます。また、作業の予約機能によって自動化することもでき、農作業の労働時間を短縮します。審査員の方

からは独創性、実用性、完成度を高く評価して頂き、優秀賞を受賞できたことをとても嬉しく思います。

コンテストを通じて、チームで1つ
の物を作り上げる難しさや楽しさを学
ぶことができました。また、一般の
方々に向けて
説明する
という貴重
な体験もで
きました。
この経験を
今後の活動
に活かして
いきたいと思います。



第一回システム創成コンテスト 制御部門で最優秀賞を受賞

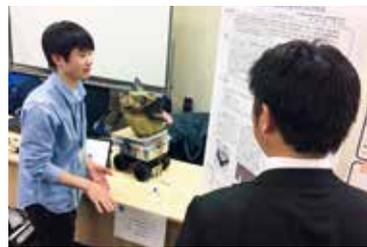
制御情報工学科5年

下村 優太

私たちは平成31年3月12日に東京の一ツ橋講堂で開催された「第一回システム創成コンテスト」の制御部門に参加し、最優秀賞を受賞しました。私たちが開発した「獣害対策ロボット」は畑の周りを巡回し、赤外線カメラで動物を検知するとそこに向けて電動ガンを発射するというものです。更に、このロボットには害獣を驚かすために犬を模したマスクが取り付けられています。

す。このマスクのインパクトとアイデアが評価されてよい結果が得られたのではないかと思います。

今回のコンテストでの一番の成果は他高専の学生や教員の方たちと交流ができたことだと思いま
す。自分た
ちとはまた
違った考え
方を知ること
ができて
とても良い
経験になり
ました。



デモ審査での質疑応答の様子

第4回PLC制御コンテスト

電子機械工学科5年

坂根 悠太

2018年の12月26日に行われたオムロン・高専機構共同教育プロジェクト「第4回PLC制御コンテスト」に電子機械工学科5年生5名からなるチームは参加しました。このコンテストでは、PLC（生産ライン用コントローラ）を用いて身の周りの問題を解決するという課題が設定されています。私たちは研究室にある膨大な数の電気抵抗を片付けるために「視覚センサを用いた抵抗仕分け装置」を提案しました。コンベアの上に抵抗を流し、

視覚センサでカラーコードを撮影した後、抵抗をしまう箱にエアを用いて飛ばすというシステムです。

当日は電磁弁のトラブルに見舞われ、上手くエアが出なかったため、期待した動作ができず惜しくも準優勝となりました。本科ではPLCを使う機会がなく、ほぼ全員が初めてだったにも関わらず4ヶ月弱でシステムを完成させたことは私たちにとって、貴重な経験となりました。



日タイ高校生 サイエンスフェアに参加して

制御情報工学科4年

中井 彩絢

2018年6月6日から10日までの間タイで行われた「Thailand Japan Student Science Fair 2018」に参加しました。このTJSSFは34校のタイの高校生と28校の日本と高校生（そのうち高専は11校）が参加する学会のようなものです。

私は同じクラスの山口真凜さんと、去年プロコンで最優秀賞を頂いた水産

業支援システム「うみどり」をテーマに英語でプレゼンテーションとポスターセッションを行いました。

その他にもサイエンスウォークラリーでロボットの操作、数学のゲーム、物理の実験をタイの学生と日本人の学生混合のチームで協力して行いました。その後には星や木星を望遠鏡で観察しました。さらに、タイ式の田植えも体験することができました。これらの経験は充実したものであり、日本では学ぶことができない多くのことを学ぶことができました。



ポスターセッションを行った時の写真

タイを堪能することができました。このような機会を与えてくださった校長先生、橋爪先生や関係者の方々、支えてくれた親や共に発表をした山口さんに感謝します。

商船学科乗船実習

2年生の乗船を終えて

商船学科航海コース3年

上村 アレックス

私は日本丸の乗船で、2つのことが心に残った。1つ目は、乗船の作業内容とその日常生活についての体験について。乗船は24時間を船内で過ごし、4時間ごとに役割のある毎日を送っている。そこでの食事や私生活、そして時間と共にくる仕事に向けての準備と作業。これは普段の学校生活の中ではできない体験である。なかでも、錨を使った作業や100mを超える船の操船、明かり無しの状況で安全に操船を行う体験は印象的で貴重な経験であった。2つ目は、仲間とのつながりである。船は言い方を変えれば海に浮かぶ鉄の檻でもある。そこで毎日1人で過ごすのは苦痛である。しかし、そんな中で仲間を多く持つ持った船乗りとしての毎日が楽しみに変わることを実感した。したがって、普段引きこもりがちな人も勇気を振り絞って、仲間作りに励んで欲しいと思う。その1歩が毎日の楽しみにきつと変わっていくと私は思った。



日本丸に乗船して

商船学科機関コース3年

安部 光騎

正直、乗船前は気が重かった。当時、船乗りになることと自体迷っていた。しかし、乗船をしてみたら違っていた。今までの学校の授業では、漠然と聞いていただけの知識などであったが、実際に感じてみるとすべての装置のつながりに納得がいく気がした。今までの知識につながりがあると実感できた。学校の知識が身になる気がする初めての体験だった。また、自分は機関の方を志望していたが、帆船の帆を操作する、操船をするなど、航海の体験してみても、航海の勉強も面白そうだと思うようになった。乗船実習を終えてみると船全般のことについて、もっと知りたいという気持ちと、乗船になりたいと思うようになった。実習に行ったら本当によかったと思っている。



商船学科遠洋航海実習

「日本丸」での乗船実習

商船学科航海コース5年

市川 翔大

私達は4年生の後期から海技教育機構の練習船「日本丸」において5ヶ月間の乗船実習を行いました。今回の実習は、帆走ではなく機走であったため、シンガポールへの航海となりました。航海に備え各船それぞれが航路計画の立案や、航海に必要な情報の収集などを行い、遠洋航海への準備をすることで、徐々に実感が湧いてきました。遠洋航海では海賊対策や節水のための海水風呂、夜間当直中での火球やグリーンフラッシュなど、普段では体験できない経験を経ることができました。遠洋航海はとて大変でしたが、無事にシンガポールに着き、日本に帰ってきた時には、今までに感じたことが無い程の達成感を味わうことが出来ました。日本丸で培った技術や知識、経験を活かして航海士として海で活躍したいと思っています。



「銀河丸」での乗船実習

商船学科機関コース5年

山田 真依

私は4年生の10月1日から5か月間、練習船銀河丸で実習を行いました。2年生の時にも帆船日本丸で実習を行いました。今回の実習ではより詳しい内容を学び専門知識、技術を身につけることができました。座学で学んだ内容を活かし、実際に作業することで、何故この装置が必要なのか等、しっかりと理解できました。その中でも配管調査、配管研究発表では、私達自身で各系統のプラントを追い1つ1つの機器の役割等を確認していくことでプラントを理解するだけでなく、定常作業で行われている内容の大切さも知ることができました。今回の実習では、多くの知識や経験を得るだけでなく、自身の課題も見つけることができました。5年生の1年間学校でより一層知識を身につけ、来年の乗船実習に挑みます。そして日本の海運業界で活躍したいと思っています。



国際交流



KCC国際インターンシップに参加して

商船学科機関コース4年

黒田 朗渡

商船学科3年生だった大塚・西田・黒田の私たち3名は3月2日から3月22日までの20日間アメリカ合衆国ハワイ州のカウアイ島に留学しました。主な内容としては、伝統航海術、語学、ハワイの歴史を現地の学校に行きながら学ぶことでした。留学期間の最後にはたくさんさんの外国人に混ざってナマホエというセーリングカヌーの乗組員になるためのトレーニングプログラムに参加しました。

学校の授業の中には英語や歴史などの一般的な授業もありましたが、星を使って方角を知りながら航海する伝統

航海術や、風を受けて走るヨットの走らせ方や、時には海に行つて海に転落した場合、助けを待つために立ち泳ぎの状態で浮き続ける授業なども行いました。どれも英語での授業で聞き取るのが精いっぱいでしたが、日本では体験できない授業を受けることができ、終始ワクワクしっぱなしでした。

1度目の週末は2泊3日のホームステイを行いました。ホームステイでは2人3人でホストファミリーのところへ行きました。ホームステイではカウアイ島にある観光地へ案内してもらったり、ショッピングモールへ連れて行ってもらったり、海水浴を楽しんだり、まるで旅行に

来ているような週末でした。平日は学校で英語を使った授業を受けていた分、ホストフ

ファミリーのおもてなしには感動しました。

2度目の週末はトレーニングに参加しました。トレーニングでは私たち以外にもたくさんの方が参加していました。このトレーニングで現地の人たちが使う容赦のない英語に終始圧倒されました。

カウアイ島の人たちはとても親切な人たちがばかりなので、少しでも気になったならぜひ行って体験してきてください。きっと最高の体験ができるはずですよ。



英語キャンプに参加して

制御情報工学科4年

山本 一稀

僕たちのアクティビティの補助をしてくれたSingapore Polytechnicの学生とも仲良くなり、とても有意義な時間を過ごすことができました。少しハードではありましたが、この英語キャンプを通じて苦手とするスピーキング能力が格段に良くなったことを実感しました。毎日出される課題をみんなを取り組んだり、最終日は寝ずにみんな話してあつた夜が今でも懐かしいです。引率をしてくださった熊本高専の先生方をはじめとするたくさんの方々、一生で一番素敵な夏休みをありがとうございました。

2018年8月20日から約2週間、Singapore Polytechnicで行われた英語キャンプに参加してきました。日本の高専から集まった高専生約20名でシンガポールに行き、Wei Yuet先生の指導のもと、平日は教室で、休日は先生が設けた様々なアクティビティを行いました。

シンガポールでの生活は僕にとって全てが新鮮で、初めて会う他の高専の学生や、



最終日のプレゼンテーション後にWei Yuet先生と撮った写真

船舶工学研究室の紹介



商船学科航海コース

鎌田 功一

船舶工学研究室は船舶が安全に運航するため、船舶の堪航性を調査研究する研究室です。校内の荒天航泊実験棟にあり、次の3つの大型の研究実験設備があります。

- ①「縦型回流水槽」…水を循環させ流れを作る設備です。模型船の水からの抵抗を計測したり、船体周りの流れを観測します。また、プロペラの試験装置を取り付け、プロペラの性能を調べることが出来ます。最大流速は秒速1.5mとなります。
- ②「造波装置付き大型風洞水槽」…密閉された広い水面に、1方向から風と波を起こす事の出来る装置です。船や構造物が風や波によりどのような運動をするかを計測することが出来ます。波は規則な波だけでなく、実際の海面の波のような不規則な波を造波することが出来ます。
- ③「砂水槽」…様に砂が敷き詰められた水槽で、船の錨の模型をウインチ等で引張ることにより性能を調べたり、海底での状態を再現できる設備です。

以上の設備の他に計測装置や工作機械が多数あります。実験実習や卒業研究でこれらの設備や装置を使用し、講義で学んだ理論や現象を実際に計測や観察することにより、より深く学び理解することが出来ます。

また、本研究室では商船学科の学生を中心に「ソーラー&人力ボートレース大会」に出場しています。この大会はソーラーパワーまたは人力を用いて推進する手作りボートのレースで、愛知県碧南市で大会が毎年開催されています。高専生らしいアイデアと創造力(と体力)でボートの設計から製作までを学生が行い昨年度は学生総合優勝を達成することが出来ました。

今後も、船舶工学研究室の活躍に応援をよろしくお願い致します。



本校に赴任してから



情報機械システム工学科

攪上 平之介

「光陰矢のごとし」という諺がありますが、過ぎてしまふと本当に速いものであります。本来、この言葉は若い学生諸君に送る諺であり、いまさら昔を振り返り後悔しても仕方ないことですが、自己紹介がてら話をしたいと思えます。

私は、昭和56年10月に機関学科教官として本校へ赴任してきました。私は北関東の出身で、鳥羽を訪れたのは2度目で、右も左もわからず不安でなりません。この時、本校は創期100年の節目で、職員方は式典の準備でみな忙しく立振る舞っていました。私は、この記念すべき時節に赴任できたことに、本校との縁を感じています。昭和60年に電子機械工学科ができ、落ち着く暇もなく昭和63年に商船学科と制御情報工学科ができました。この時に私は、制御情報工学科に転籍しました。

赴任当初は、学生と兄弟のような年齢でしたが、時が過ぎ親子のようになり、今ではお爺さんと言われるも仕方ない年齢になってしまいました。

私の専門分野は機械系で、熱力学に関する研究をしていました。その後、モノづくり教育をコンセプトに地元企業との交流事業にかかわり、学生と共に設計・製作をした大型水車を鳥羽のホテルに提供し、展示してもらっています。また最近では、IoTをテーマに卒業研究で、白杖の補助装置の試作を行っています。

いろいろと力不足や失敗もありましたが、これだけ長くやってこられたのも、学生、保護者をはじめ教職員方のおかげであると感謝しております。年号も令和となり、今年度より情報機械システム工学科ができました。定年退職まで残り少なくなってきましたが、微力ながら本校の発展に尽力できればと思っております。

研究室紹介



一般教育科

鈴木 聡

私の専門分野は非英語圏の英語教育、英語教育史、文献学、辞書学の四分野です。非英語圏の英語教育については、現在の大学入試の代わりに導入予定の民間英語検定試験の評価基準が国際的な評価基準とされるCommon European Framework of Reference for Languages (略称CEFR) 基準の教科書やテストと対照した場合の妥当性について検討しています。そのために、イスタンブール工科大学の先生方や先日来校された安河内哲也先生のように外部の先生方とも交流しています。英語教育史については日本の英語教員養成史において臨時教員養成所が果たした役割と卒業生の評価について調査しています。文献学は聖書を中心に古英語・ゴート語・ギリシャ語・ラテン語といった古典語の用法及び古典語を通じて現代英語の問題点のための調査を行っています。辞書に関しては英語を中心として言葉の変遷や辞書の装丁等について調査・分析を行っています。現在研究室には英語のほかに様々な言語の辞書があります。以下にこれまで収集した一例として小型の辞書を研究室の展示ケースに入れて展示しています。興味のある方は一度ご来室ください。



就職支援セミナーに参加して

制御情報工学科5年

高山 雄成

私は平成29年度と今回30年度、2回の就職支援セミナーに参加しました。3年生で参加したときは、まだ就職について実感がなかったのですが、興味のある職種の企業を探したり、企業の方に声を掛けられたりして積極的に話を聞きに行ったことを覚えています。この就職支援セミナーには、本校の卒業生が来てくださるので、「この科目の授業が会社で役に立つ」など、私たち学生にとって具体的にわかりやすい説明が多かったのも助かりました。その後4年生になって、就職支援セミナーで出会った企業のインターンシップに実際に参加し、セミナーで聞いた話を体感できました。

今回のセミナーでも改めて同じ企業を訪れ、普段は連絡を取るのが難しい人事の方に具体的な質問をすることができたので、安心して就職試験に臨み、合格通知を手にもすることもできました。就職活動においてこのセミナーへの参加は大きな意味がありました。特に3年生の皆さんにはぜひ参加してほしいと思います。



新入生オリエンテーションに参加して

商船学科1年

續石 まとい

私は今回のオリエンテーションでたくさんのことを学びました。まだ入学したばかりで話したことのないクラスメイトや、他学科の人と話すきっかけとなりました。

1日目は曾爾村にある標高1037メートルの俱留尊山(くろそやま)に登りました。長い距離で疲れましたが、頂上に着いたときは最高の景色と、みんなで登りきった達成感を味わう事ができました。2日目は各班がテーマについて話し合ったことを発表しました。相手を見て話すことや、声の大きさ、相手が聞きやすい話し方をするなど、コミュニケーションの大切さを知ることができました。

他にも時間を守る大切さを学ぶこともできました。オリエンテーション中に何回か、時間内に点呼が完了しなかったことがあったのですが、1人が遅れることで全員が遅れることを改めて感じる事ができました。

今回のオリエンテーションで得た知識と友情を、これからの日常生活で活かしていきたいです。



自動車安全講習会に参加して

商船学科機関コース5年

東 美里

6月1日の土曜日に南部自動車学校でおこなわれた自動車安全講習会に参加しました。まず、効果測定というテストを受けました。やはり覚えていない問題もあり、改めて勉強になりました。

その後、場内のコースを南部自動車学校の先生と一緒に4人1班で回りました。S字クランク、踏切、縦列駐車、左バック等を行いました。私はS字クランクを通る際、入口で脱輪してしまいました。元の場所に戻り、無事通ることができました。そして、先生とここが良かった、次はこうしようというフィードバックを行いました。このフィードバックを通して、油断や余裕が出てきて運転が雑になっているなど改めて認識することができました。

これを機会として、もう一度自分の運転の仕方を見つめ直し、これくらいなら大丈夫だろうと思わず安全に運転できるドライバーになろうと思いました。



演劇鑑賞について

商船学科2年

杉浦 崇翔

私は初めての演劇鑑賞に心が踊っていました。今回の演題は『ヘレン・ケラー』でした。

小さい頃に本で読んだことがありましたが、とても感動的で、主人公ヘレンが辛いようがいも家庭教師のアンニー・サリバン先生と共に乗り越えるというストーリーでした。このストーリーをいかに演劇に取り入れていくのが楽しみでした。

本番、私は驚きました。想像の上の上を越えてきたのです。演技者の迫真の演技、スケールの大きい大道具、完璧なライトワーク、一人一人のスタッフの方が輝いて見えました。私は、学生会で様々な行事で活動してきましたが、明らかにレベルの差を感じました。

観劇後、舞台裏見学のあと、片づけにも参加したのですが、実際に舞台上で出演されていた方と一緒に片づけができて、とても新鮮な体験ができました。こんなに楽しく、感動的な体験ができて、とても良かったです。



平成30年度 電子機械工学科・制御情報工学科卒業式並びに 生産システム工学専攻修了式を挙

平成31年3月17日(日)、平成30年度電子機械工学科・制御情報工学科卒業証書授与式並びに生産システム工学専攻修了証書授与式を挙

式を挙行しました。林校長から電子機械工学科38名、制御情報工学科36名へ卒業証書が、専攻科生産システム工学科専攻10名へ修了証書が手渡され

ました。林校長は卒業生に対し、「これから皆さんの進む道は多岐に分かれます。しかし、将来それは再び交わることがあるはずで

す。そのときに、鳥羽商船高専の卒業生・修了生として自信に満ちた再会をしていただけることを私は切に願っております。友

達を大切に、自分の命、周りの人の命を大切に、今後進むべき道で、社会に貢献されることを強く祈念いたします」と祝辞を述べられ

ました。続いて、来賓である中村欣一郎鳥羽市長、菅沼延之同窓会会長より、御祝辞をいただきました。

また、在校生代表から送辞、卒業生代表から答辞、修了生代表から挨拶が読み上げられました。

続いて、在学中における功績として、優等賞、皆勤賞、精勤賞、一般社団法人日本機械学会畠山賞の授与が行われ

ました。式の後には校歌斉唱が行われ、卒業生・修了生を祝福しました。卒業生・修了生は、鳥羽商船高専での思い出を胸に、晴れやかな姿で本校を巣立っていき



公開講座・出前授業実施

公開講座一覧 サイテラランド in 鳥羽商船高専 2019

講座名称	開催日時
船員の仕事 in 鳥羽商船 (鳥羽クルーズ)	7月27日(土) 9:00~15:30
英語高速学習講座~中1で英検3級へ~	8月1日(木)~8月6日(火) (土日除く4日間) 10:00~16:00
ソーラーで動くおもちゃ工作	8月7日(水) 9:30~12:00
おもしろ理科実験	8月20日(火) 9:30~12:00
レーザー加工機を用いてオリジナルグッズを作ろう	8月20日(火) 13:00~17:00
3Dプリンタでオリジナルグッズを作ろう	8月21日(水) 9:30~14:30
IchigoJamでマイコンプログラミング(U16プログラミングコンテスト三重大会事前講習会)	8月23日(金) 10:00~15:00 8月24日(土) 10:00~15:00

スポーツ講座

講座名称	開催日
小学生のためのバレーボール教室	10月5日(土) 9:30~11:30(初心者) 13:30~15:30(経験者)

その他の講座

講座名称	開催日
鳥羽商船高専の練習船に乗って体験航海と造船所見学	7月25日(木)
みえアカデミックセミナー	7月27日(土)
鳥羽商船高専の練習船に乗って体験航海と造船所見学	8月1日(木)
練習船「鳥羽丸」の一般公開と体験航海(四日市港まつり)	8月4日(日)
練習船「鳥羽丸」による名古屋港PR活動及び一般公開	11月9日(土)、10日(日)
もうすぐクリスマス遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話	12月14日(土)

出前授業

体験型学習

講座名称	担当学科
機関士のしごと体験	商船学科・テクノセンター
物を冷やす仕組み	商船学科
オリジナルTシャツ・バッグ作成講座	情報機械システム工学科
食品の加熱って? -電氣を利用したヒーターの製作-	商船学科
LEGO ロボットを作ろう(初級)	情報機械システム工学科
LEGO ロボットを作ろう(機械)	情報機械システム工学科
LEGO ロボットを作ろう(情報)	情報機械システム工学科
オリジナル下敷きを作ろう!	情報機械システム工学科
風に向かって走る車を作ろう	商船学科
合成写真を作って遊ぼう	情報機械システム工学科
ヒューマノイドアニメーションを作ってみよう	情報機械システム工学科
3DCGを体験してみよう(初級編)	情報機械システム工学科
3DCGを体験してみよう(応用編)	情報機械システム工学科
3DCGアニメーションを体験してみよう	情報機械システム工学科
クリップモーターで車は走るか?	情報機械システム工学科

教養講座

講座名称	担当学科
トランシーバを使ってみよう	商船学科
商船の話(日本の貿易を支える船と船員)	商船学科



編集後記



本年度は、新学科「情報機械システム工学科」が設立され、令和が始まって本校も新たな第一歩を進む年度となりました。今回も無事に学校だより第90号が発行出来て、執筆・編集他、皆様のご協力に感謝しております。

第90号でもたくさんの記事候補があり、掲載内容に迷うこともありましたが、さまざまな学生の活躍や研究室の紹介を載せることができましたので、是非じっくりとお目をお通しください。(澤田記)

